
歌声を亡くした(土田×毒舌)

エイノジ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歌声を亡くした（土田×毒舌）

【Nコード】

N7951Y

【作者名】

エイノジ

【あらすじ】

土田×毒舌

毒舌がかぜをひいた

「元気ないな」

「……」

たまたま一緒だった楽屋には既に有吉は来ていて、特番組むらしいぞー、と事務所が同じだという理由らしい原因で楽屋を一纏まりにされたとぼやく

「本なんか読んでねえで、久しぶりに会ったんだから、もっとコミユニケーション計れよな」

「……」

本から目を上げ、固く閉じた口が不機嫌を物語る

また直ぐに視線は文字を追い、俺は手持ち無沙汰にさせられる

「ったく…可愛くねえなあ」

ほんととは可愛いんだけど

どうしようもねえくらい可愛いと感じてしまっけれども

すると有吉はポケットから携帯を取り出して、ポチポチと押し始めたそれが何を意図してかは分からず、画面を覗き込むのもプライバシーがあると思つて何も出来ず…

「ん、何…」

とんとん、と肩を叩かれて振り返ると携帯電話を押し付けられる

『風邪引いて、喉壊しました。声が出ません。』

簡潔に無駄なく書かれたメール作成内にある文章

「……バカ、早く言えよ!!」

声出せない奴にちよっかい掛け続けた俺ってどんだけダセエんだ

「つか、声出ねえんだったら収録出来ねえんじゃねえの?」

暫く携帯のポッチを押して見せられた画面には

『人多いから大丈夫だって。座ってるだけでいいみたい。土田さん、俺の分まで頑張って喋ってね（ハート）』

とごく丁寧に絵文字なんか付いてきて

「ほんと、有吉様々だな」

(後書き)

エムプロ！バトン倉庫

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7951y/>

歌声を亡くした(土田×毒舌)

2011年11月23日18時50分発行